

一般社団法人日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 39 回 リサイクル燃料貯蔵分科会 (F4SC) 議事録

1. 日時 2017 年 2 月 6 日 (月) 13 : 30～15 : 20
2. 場所 東京工業大学 大岡山キャンパス 北 1 号館第 1 会議室
3. 出席者 (順不同, 敬称略)
 (出席委員) 木倉 (主査), 浅見 (副主査), 白井 (幹事), 松本, 松岡, 大岩, 入江,
 影山, 佐伯, 澤, 清水, 水谷, 山根, 亘 (14 名)
 (代理出席委員) 副島 (小佐古代理), 高橋 (長田代理) (2 名)
 (常時参加者) 吉村, 本田, 樋口, 下条, 広瀬, 野島, 蓬田, 堂守, 工藤 (9 名)
 (欠席常時参加者) 菱田, 大野, 石川 (3 名)
4. 配付資料
 F4SC39-1 第 38 回リサイクル燃料貯蔵分科会議事録 (案)
 F4SC39-2-1 リサイクル燃料貯蔵分科会作業会 1 の検討状況報告について
 F4SC39-2-2 金属キャスク標準 附属書 K 修正案
 F4SC39-3 標準委員会の標準策定 5 カ年計画の更新について

参考資料

F4SC39-参考 1 標準委員会 専門部会運営通則他

5. 議事

幹事より, 開始時の出席者の確認が行われ, 決議に必要な委員総数の 2 / 3 以上の委員数を満足している旨の報告があった。

(1) 前回議事録確認

- 前回議事録 (案) として F4SC39-1 の確認が行われ, 承認された。

(2) 作業会 1 の活動状況について

- 作業会 1 主査である松本委員より, 金属キャスク標準における作業会 1 の改定検討状況として, 引用文献の調査の状況, 及び標準制定までの工程案について, F4SC39-2-1 に基づき報告がなされた。
- 引用文献の調査については, 一次評価がほぼ終了し, 今後, 継続して作業会 1 で調査結果の検討を進めていくことが確認された。
- 工程案については, 具体的な技術審査内容を別途委員に連絡するものの, 提案どおり

了承された。

- また、松本委員より、前回分科会における議論をふまえ、附属書K（核データライブラリ及び解析コード）の位置づけに関する検討案について、F4SC39-2-2に基づき提案がなされた。
- 議論の結果、現行の「ライブラリ及び解析コードを使用できる」の記載を見直し、「使用者の便宜のため『参考』として紹介する位置づけ」とする方向性について確認された。今後、本文の引用部の記載ぶりと併せて分科会にて再確認することとした。
- 附属書Kに関する議論における主なコメントは以下の通り。
 - ・ 修正案の注釈*の記載は必要なのか。「・・・コードを使うことができる」の記載を「・・・コードがある」との記載に修正したのであれば、当該注釈の記載は不要ではないのか。
 - ・ 使用できるライブラリ／コードを制限することにならないか。附属書Kそのものが不要ではないか。→ こういうコードがあるということが附属書Kに明示されている方が、使用者にとって利便性が増すと思われる。

（３） 標準策定５カ年計画の更新について

- 標準活動基本戦略タスクから依頼の「標準策定５カ年計画の更新」の概要について、F4SC39-3に基づき幹事より紹介するとともに、F4SC39-2-1における改定スケジュール案と整合させた金属キャスク標準の５カ年計画（H28～H32年度）の更新案、及びコンクリートキャスク標準の変更案について、幹事より提案がなされ、審議の結果了承された。
- なお、他分科会において「５年毎改定不要承認」としている実績の取扱いについて、幹事より標準事務局に確認することとした。
→（補足）会議後、標準事務局へ照会した結果、分科会で「改定不要承認」とすることの合意を経て、最終的に上部委員会です承されているとのこと。

（４） その他

①IAEAの技術動向について

広瀬氏より、輸送貯蔵兼用キャスクセーフティケースの適用に関するIAEA技術会合に向けた動向、及び技術会合における具体的な検討のため、今後、事業者、キャスク供給者に対して協力依頼をする予定である旨の情報提供がなされた。

②次回分科会予定

2017年6月28日（水）14:00～ （場所：東京工業大学）

以 上